



福祉用具を用いた医療介護連携に向けた取り組み －入院・入所リハ中の方への福祉用具レンタル－

(株)会津リハビリテーション研究所
会津リハビリ機器 作業療法士
真部敦

【C O I 開示】

発表者名：真部敦

演題発表内容に関連し、発表者に開示すべき
C O I 関係にある企業などはありません。

【はじめに】

医療機関において患者が訓練の早い段階において、住み慣れた家でできるだけ自立した生活ができるよう居宅の生活環境を想定し、福祉用具等を活用した訓練を取り入れることが重要¹⁾とされているが、多数の患者の状態に適合できる用具を備品として用意しておくは、その管理、収納やメンテナンスを含めて膨大な労力が発生することとなる¹⁾ため、患者の状態やその変化に合わせた適切な福祉用具が利用されにくい状況であると考えられる。



この度**入院・入所中の方を対象**に、**最長1か月を限度とした福祉用具無料レンタルサービス**（以下無料レンタルサービス）を開始したため、その概要と結果を報告する。対象者の方には、個人が特定できない内容での発表を条件に同意を得た。

【対象】



2018年10月～2019年7月に、医療機関での入院リハビリテーション（以下リハ）を受けた方で、無料レンタルサービスの利用希望があった方3名。

- 会津地域内の医療機関

【方法】

目的：作業療法士か理学療法士が用具選定に関する事を条件に、無料レンタルサービスを使ったりハを受けてもらい、スムーズな在宅生活移行につなげてもらうこと。

- 予め無料レンタルサービスの概要と利用方法について、各医療機関にインフォメーションを行った。

対象品目：レンタコム福祉用具カタログvol. 18
(弊社ホームページ内に掲載) 内の**歩行器（4
1品目）・車いす（55品目）・杖（9品目）**
とした。

●**担当作業療法士か理学療法士**（以下リハ担
当）より当事業所に連絡を頂き、カタログから
適切な福祉用具を選定してもらい、相談の上複
数の福祉用具を各医療機関に搬入した。**リハ実
施時刻に合わせて搬入を行い、患者の状態と環
境因子等について情報を得ながら、適切な用具
を選定**した。

【結果】

搬入機器は合計6品で、**全て歩行器**であった。3名の方全員が無事退院され、退院後1か月以上福祉用具を使いながら在宅生活を送っている。1名の方は、退院前訪問指導にも同行させて頂いた。



※画像ケアマックスコーポレーション

【考察】



通常の**保険制度運用**では、退院前後の福祉用具利用の継続性は前提とされていない¹⁾ため、入院中のリハにおいては、専門的な視点から適切な福祉用具が提供されていない可能性があると考えられる。

これに関して日本作業療法士協会の実証事業では、病院内で**多職種からなるチームを構成し、リハ専門職が関与して個々の利用者に適合した福祉用具をレンタルで調達するプロセス**の試行を行った²⁾。この結果、利用者に合う**用具選定のしやすさや、リハ指導のしやすさ、看護のしやすさ、リハの効果**などについて、評価が得られている²⁾。

無料レンタルサービスは、**入院中は保険請求ができない**ものの、上記のような入院中の効果があり、**スマートな在宅生活への移行について、一定の成果はある**と考えられる。また、福祉用具を備品として抱えるのではなくレンタルすることについての**病院経営上の課題については、施設備品とレンタルのコスト比較、福祉用具の選択肢の拡大、利用者の自立度の向上等が、プラス要因として挙げられている²⁾が、事務的な交渉等の時間的ロスを最小限とする目的で無料レンタルサービスを開始した。**利用者・患者の自立支援のため、さらに今後も地域において利用価値が高まるよう、経営上の課題も含めて検討していきたい。

【引用文献】



- 1) 日本作業療法士協会, 医療・介護連携に向けた福祉用具導入マニュアル. 2014
- 2) 日本作業療法士協会, リハビリテーション専門職による福祉用具の効果的な導入・運用に関する実証研究事業